この学校では、こんな学びが始まる

森・畑・ワインをつなぎ、山梨ブランドをつくる高校

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

山梨県立農林（のうりん）高等学校

全日制／農業科

類型1

この改革が必要な背景

- 山梨県では農林従事者の引退および若年人材の不足が同時に進行。スマート機器・ICT・データ活用等を担う人材の不足も進んでおり、次代の中心となる**スマート農林業や付加価値づくりを担える人材育成**が急務
- 一方、農林高校では、志願倍率と定員充足率の低下が続き、**農林業分野の志望低下や進路の見えにくさが課題**となっている上、県内就職率は100%と高いものの、農林業関連の職に進む生徒は一部

事業概要（学びの変化）

農林業の価値を再発見する学び

- ✓ **全学科で**森林の**公益的機能と農林業**との関係、**地域保全**とのつながりを体系的に学ぶカリキュラムへ改革
- ✓ **県産材**の活用が**森林整備**や**土砂災害リスク**の低減、CO_2吸収源の維持につながること等を学ぶ「学校設定科目」を新設するとともに、民間企業とも連携し、小中学生向け環境・森林教育ワークショップで学びを地域に伝える活動を実施

「地域資源一貫ブランディング教育」の実践

- ✓ 県オリジナル品種の果樹を教材に、産地・品種・加工技術を結び付けた付加価値創出の考え方を学ぶ科目として、これまで実施してきた学校設定科目「ワイン学」を改組した上で、**「地域資源一貫ブランディング探究（仮称）」へと発展**させ、**地域資源一貫ブランディング教育（７単位）を実施**
- ✓ **協力校**、**県酒造協同組合等と連携**し、科学的根拠に基づく醸造、付加価値づくりや海外輸出も視野に入れた一体的な学びを推進し、醸造産業中核人材を育成

データと機械で、気候変動に強い農林業を学ぶ

- ✓ 環境制御型ハウスで、温度・湿度・CO_2濃度・水やりの量などを**データで**見ながら、**栽培を調整する手法**を学ぶ
- ✓ 自動運転トラクタや自動野菜移植機、ドローン、VRシミュレーターも活用し、**省人化**や**安全教育**を実践
- ✓ 外部講師や有資格教員といった**スマート農林業エキスパートの指導**による**データ分析**や**ドローン操縦等に関する知識・技能の習得**

交流センターで、地域と一緒に山梨の産業の未来をつくる

- ✓ **甲斐市と連携**し、農林業の担い手不足をテーマとした**スマート農業実証研究**を実施
- ✓ **県立農林大学校と連携**し、進学・就農・関連企業への就職を見据えた、**人材の持続的な育成・循環の仕組み**の構築
- ✓ **「醸造・食品研究・交流センター」の設備**を地域住民や小中学生、県内ワイナリー等と**共同利用**し、**地域全体のワイン産業の高度化**を支援

＜生徒の1日の流れ（例）※システム園芸科２年Ａさん＞

【9:00】
環境制御型ハウスにて、ブドウ栽培の管理実習

【11:00】
取得データを用いた栽培計画の立案

【13:30】
自動トラクタの操作技術実習

【16:00】
「地域資源一貫ブランディング探究」において、商品開発・販売戦略の学習

高校生の未来の姿（指標の例）

県内農林業関連産業への人材供給

（現状） 9名 ⇒ （R10） 20名 ⇒ （R13） 30名

他校への普及方策

「醸造・食品研究・交流センター」の設備を、他校・地域・企業における共同利用、技術交流、人材育成の拠点として活用　等

主な連携機関

山梨大学、山梨県立農林大学校、県果樹試験場、山梨県酒造協同組合　等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成